

自閉症状を示した障害児の学校適応に 関する追跡研究 IV (I)

— 自閉症児の普通学級適応についての検討 —

園山 繁樹****・藤原 義博****・板垣 健太郎**
太田 俊己***・加藤 悦子*****・松浦 裕子*****
阿部 義光*・小野沢 正俊*・古内 良勝*
松本 敬子*・小林 重雄

幼児期に治療教育・訓練を受け小学校普通学級に入学した自閉症児の学級適応について、われわれは1年毎に経過を報告してきた。本報告はそれに続く第4報である。

本研究では、6名の自閉症児(4年生5名と3年生1名)の算数の学習達成度とIQについて調査した。以下のような結果が得られた。(1)算数の3学年レベルを達成したものは3名のみであり、他の3名は1学年以下のレベルであった。(2)4名について、計算能力が相対的にすぐれていた。(3)IQの範囲は66から111であり、5名で成績のばらつきがみられた。(4)IQと算数の学習達成度の間に、高い相関関係が認められた。以上の結果から、先行研究で示唆された計算能力の相対的優越性が支持された。また、教科学習能力とIQとが密接に関係していることが示唆された。

I 目 的

幼児期に治療教育・訓練(行動療法)を受けた後、小学校普通学級に入学した自閉症児の学級適応について、我々はこれまで1年毎に経過を報告してきた(板垣他, 1979; 山根他, 1980; 板垣他, 1981)。本報は、それらに続く第4報である。

前報(板垣他, 1981)では、行動に関するチェックリストで各症例ともほぼ上限に達しており、担任教師の報告でも「特に目につく問題はみられなくなった」ことが示された。また、学習適応チェックリスト(上限は1年終了時相当)では、算数・社会についてほぼ全員が上限に達し、他の領域ではほとんど1年終了時以下のレベルにあることが明らかにされた。

今後は、教科学習に関する調査が重要であると思われる。そこで、本報では算数の学習達成度を中心に検討する。

II 方 法

算数の学習達成度を調べるために、教研式観点別到達度学力検査(CRT)を用いた。対象児の使用教科書に準拠した検査と準拠しない検査の2種類を行った。また、知能水準を調べるために、田中ビネー知能検査を実施した。調査期間は、昭和56年4月~10月である。

III 対 象 児

対象児は、小林の基準(1978)により自閉症と診断された児童で筑波大学知能障害研究室で指導を受け、昭和53年4月に小学校普通学級に入学したものの5名(4年生)と、1年間の就学猶予の後昭和54年4月に入学したものの1名(3年生)である。前報でのG児は養護学校へ転校のため対象から除外し、昭和54年に入学したH児を新たに対象に加えた。

以下に各対象児の簡単なプロフィールを示す(アルファベットで記した各氏名は前報と同一である)。

1. A児, 男児, 昭和46年9月生

主訴: 他児と遊べない。落ち着きがない。指示に従えない。

出産: 熟産, 吸引分娩, 生下時体重 3760 g。

* 昭和56年度研究生

** 北九州市立総合療育センター

*** 国立特殊教育総合研究所

**** 心身障害学研究科

***** 教育研究科

容は不明)。IQは、66から111の範囲にある。

E児は成績がほぼ8・9歳で安定しているのに対し、その他の児童は成績がアンバランスであることがわかる。

3 CRT得点とIQの関係

図2は、使用教科書準拠検査による前学年のCR

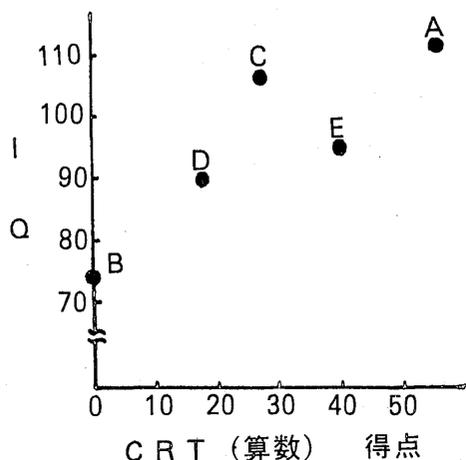


図2 CRT (算数) 得点とIQの関係

T得点とIQの関係を示している。ただし、前学年の検査を実施しなかったH児は除いた。また、3学年の検査を実施してもかなりの低得点が予想されたB児のCRT得点は0とした。

CRT得点とIQの間には高い相関が認められた ($r = .80, P < .05$)。

V 考 察

1 算数の学習達成度

前報(板垣他, 1981) 前々報(山根他, 1980)では、学習適応チェックリストを用い、A, B, C, D, E児について、4領域(算数、国語、社会、理科)のうち算数の学習達成が最も良く、ほぼ1学年レベルに達していることが示された。しかし、今回の調査では、前学年の内容を十分に達成しているのは1名のみであった。比較的得意科目と思われた算数でも、当該学年レベルを達成するのはかなり困難であることが明らかになった。

CRT得点プロフィールをみると、A児とC児を除いて、「技能」が相対的にすぐれていることがわかった。「技能」に関する問題は計算能力を計るものである。計算能力は他の能力よりすぐれていることは前報(板垣他, 1981)や小林(1980)でも示されており、今回の調査でも支持された。

また、「知識・技能」と「数学的な考え方」に関する問題は、文章の理解と計算能力の実際的な応用を必要とすると考えられる。したがって、この領域での落ち込みの要因を明らかにするためには、国語の学習達成度を調べる必要がある。

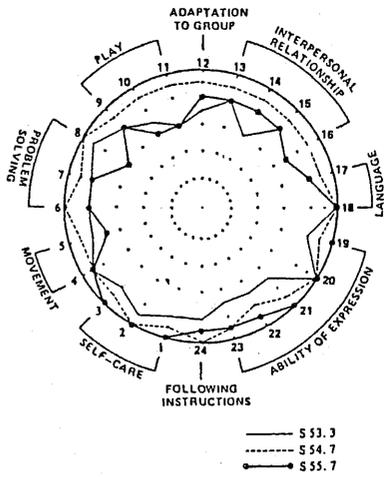
2 入学時のT-C L A Cとの比較

入学時のT-C L A Cにより、高得点群A群(A, B, C, D児)と低得点群B群(E, F, G児)に分類された(板垣他, 1979; 山根他, 1980)(図3~図8参照)。そして、これまでにB群のF児とG児が養護学校へ転校し、E児はA群と同じような経過をたどってきた。今回調査したCRTでも、E児はA児に次いで達成度が高いことがわかった。E児のこうした変化については、介助員によるプロンプト効果、あるいは個体特性が考えられる(山根他, 1980)。今回の調査では、そのうちの個体特性としての知能の関与がいくらか明確になった。すなわち、E児のIQは95で普通範囲にあり、また、知能検査の成績がMA付近で安定していた。したがって、E児の改善には個体特性としての知能が関与していることが示唆される。

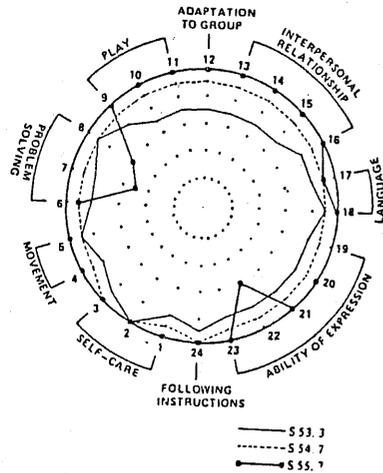
E児以外の児童では、ほぼ入学時のT-C L A Cから予想された経過を示してきていると考えられる。しかしながら、普通児との差は教科学習の面でもかなり大きく、なんらかの援助が必要と思われる。(付記: 本研究の資料集積、まとめにあたって、人間学類生、坂本玲子、鈴木礼子、日浦伸祐各氏の協力を得ました。)

引用文献

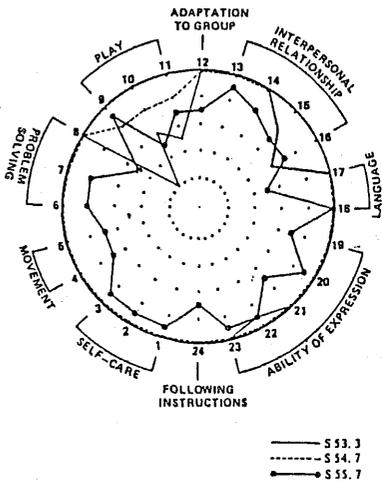
- 板垣健太郎 他、自閉症状を示した障害児の学校適応に関する追跡研究 I(2)——自閉症児の普通学級適応についての検討——, 心身障害学研究3, 101~109, 1979.
- 板垣健太郎 他、自閉症状を示した障害児の学校適応に関する追跡研究 III(1)——自閉症児の普通学級適応についての検討——, 心身障害学研究5, 1~11, 1981.
- 小林重雄 編著、「自閉症児」, 川島書店, 1980.
- 山根律子 他、自閉症状を示した障害児の学校適応に関する追跡研究 II(1)——自閉症児の普通学級適応についての検討——, 心身障害学研究4, 82~91, 1980.



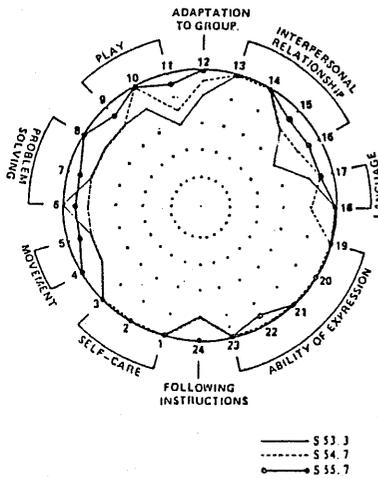
☒ 3 T-CLAC
Sub. A



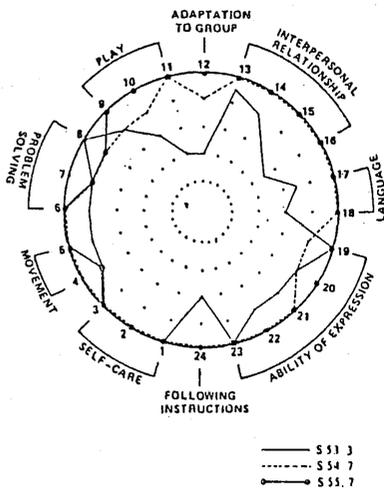
☒ 4 T-CLAC
Sub. B



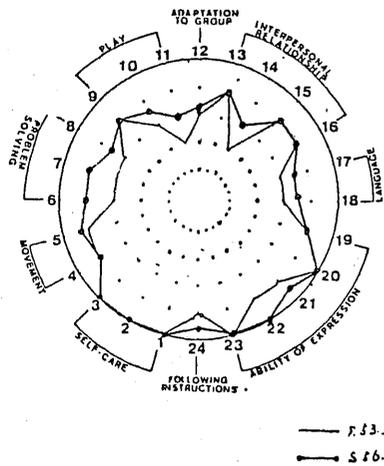
☒ 5 T-CLAC
Sub. C



☒ 6 T-CLAC
Sub. D



☒ 7 T-CLAC
Sub. E



☒ 8 T-CLAC
Sub. F

Summary

The follow-up studies concerning school adjustment of handicapped children with autistic symptoms.IV (1)

— Discussion with adjustment of autistic children in regular class —

Shigeki Sonoyama, Yoshihiro Fujiwara, Kentaro Itagaki, Toshiki Ohta, Etsuko Kato, Yuko matsuura, Yoshimitsu Abe, Masatoshi Onozawa, Yoshikatsu Furuuchi, Keiko Matsumoto, and Shigeo Kobayashi,

We have reported about how autistic children had adjusted in regular class of primary school(Itagaki et al., 1979 ; Yamane et al.,1980 ; Itagaki et al.,1981).

In this study, by means of the Kyoken-Criterion-Referenced Test (CRT) of arithmetic and the Tanaka-Binet Intelligence Test,six autistic children who had been attending at regular class were evaluated. Five of the subjects were at the fourth grade and one at the third grade.

The results were summarized as follows :

- (1) Three of the subjects achieved at around the third grade level of arithmetic abilities and othdrs were unable to complete well the problems of the first grade level.
- (2) For four of them, reckoning were superior to manipulating of knowledge-comprehension and arithmetic reasoning.
- (3) The range of IQ was from 66 to 111. One of them passed the almost all items of her MA level on the intelligence test, on the other hand, four did not pass some items of lower level and did pass some of higher level than their MA.
- (4) High correlation was shown between IQ and CRT scores($r = .80, p < .05$).

According to the results above, we discussed as follows :

- (1) It was demonstrated that the reckoning skill was superior to other skills. This is supported the former follow-up study(Itagaki et al.,1981) and the other(Kobayashi,1980).
- (2) It would be also concluded that acquisition of academic skills was considerably related with their intelligence levels.